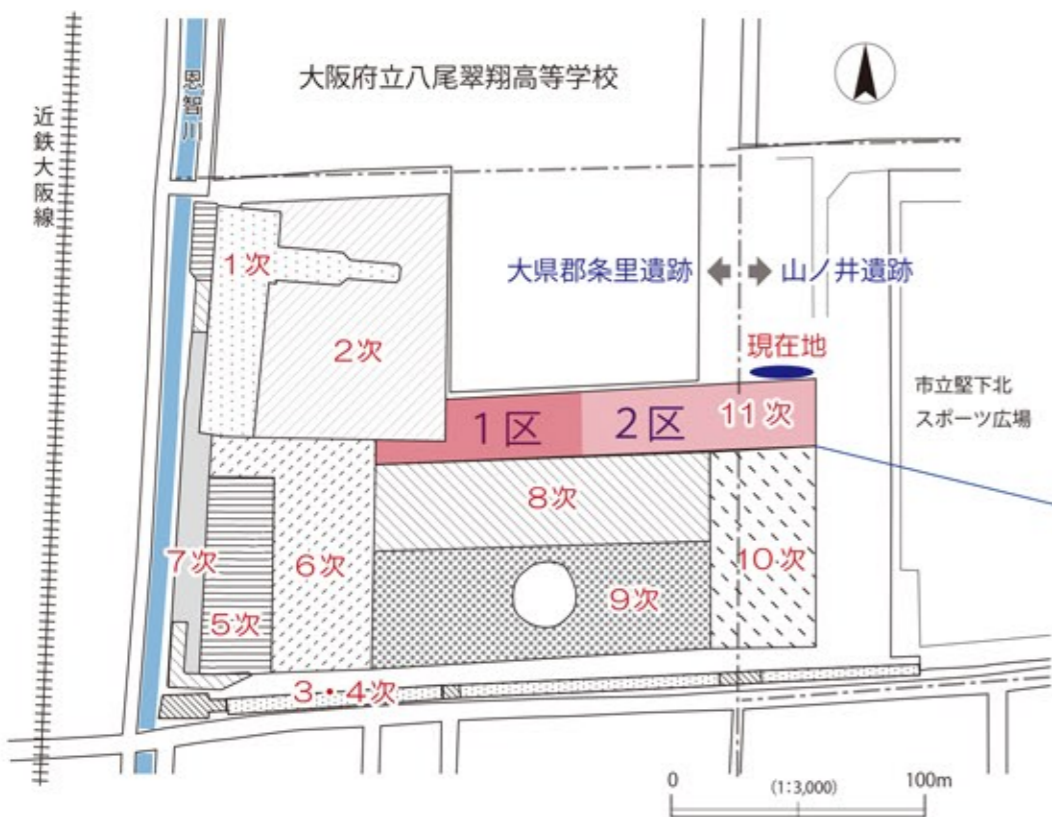


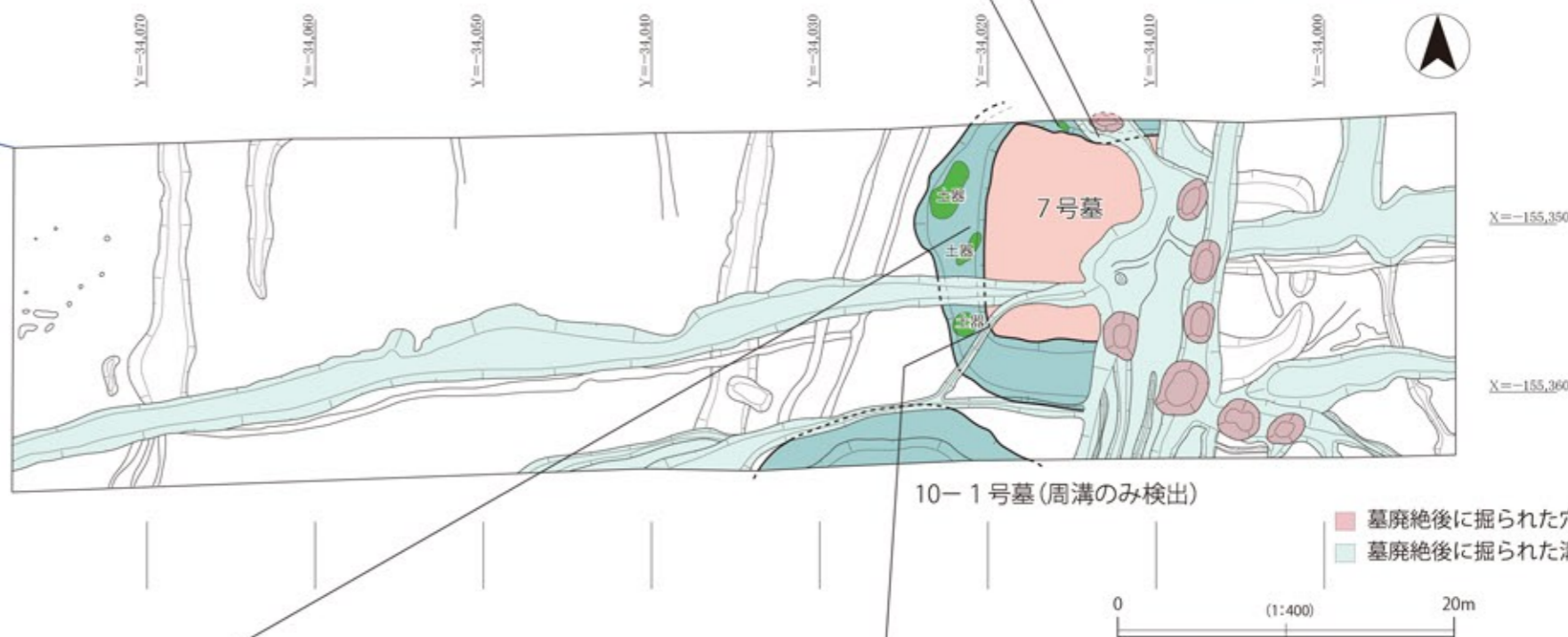
大県郡条里遺跡・山ノ井遺跡 現地公開資料



北側の周溝から出土した弥生土器
墳丘の斜面に近い場所から出土しました。



7号墓廃絶後に掘られた溝から
出土した土器
古墳時代前期初頭の土器が出土しています。



10-1号墓(周溝のみ検出)

■ 墓廃絶後に掘られた穴
■ 墓廃絶後に掘られた溝

今回の発掘調査は、寝屋川流域総合治水対策の一つである恩智川（法善寺）多目的遊水地の整備に先立ち、令和5年1月から実施しています。事業予定地の範囲には大県郡条里遺跡と山ノ井遺跡が広がっています。

平成23年度以降、公益財団法人大阪府文化財センターでは発掘調査を継続して行っており、今回の発掘調査は11次目にあたります。

発掘調査では、現代の盛土や江戸時代以降の田んぼ・はたけの耕作土を機械で掘削した後、それ以前に形成された地層をスコップやジョレン等を使って人力で掘り進めていきます。

大県郡条里遺跡と山ノ井遺跡は平野部の低い場所にあり、湿地状の環境が長く続いたため、縄文時代から中世の間に堆積した地層は主として泥質の土で、厚さは約1.5mに達します。

今回の発掘調査で、上層では平安時代後期から中世後半の田んぼやはたけがみつかりました。田んぼやはたけはアゼや溝をマス目状に規則正しく設置した条里型地割で、現在でも道路や田んぼの区画にその痕跡が残っています。

下層では弥生時代中期末から後期前葉頃（約2,000～1,900年前）のお墓がみつかりました。お墓は墳丘のまわりに溝をめぐらせた周溝墓で、墳丘の形状が四角であることから方形周溝墓と呼ばれています。周溝内からはお供えやマツリに使用した弥生土器が多数出土しています。



西側の周溝から出土した弥生土器
周溝の外側から転がり落ちたような状況で出土しています。



西側の周溝から出土した土器



墳丘の検出状況
黄色い部分が墳丘です。墳丘の上では、平安時代後期の耕作痕を検出しました。

大県郡条里遺跡・山ノ井遺跡でみつかった周溝墓

大県郡条里遺跡・山ノ井遺跡では、これまでの発掘調査で合計7基の周溝墓が確認されました。周溝墓は、弥生時代中期後葉のもの(2・6号墓)が2基、弥生時代中期末から古墳時代前期のもの(1・3・4・10-1・7号墓)が5基みついています。周溝墓は、縄文時代晩期中葉以前の砂礫層が堆積することによってできた、地形の高いところに立地しており、弥生時代中期後葉の2基と弥生時代中期末から古墳時代前期の5基は東西に離れた場所につくられています。

弥生時代中期後葉の2・6号墓は、墳丘の形が長方形です。埋葬施設は2号墓周溝内の南側で1基、6号墓の墳丘で8基確認されており、6号墓は複数埋葬だったことが判明しています。2号墓周溝内の埋葬施設では木棺の底板が残っていましたが、6号墓の埋葬施設では木棺はみつかりません。また、どの埋葬施設も副葬品は出土していません。

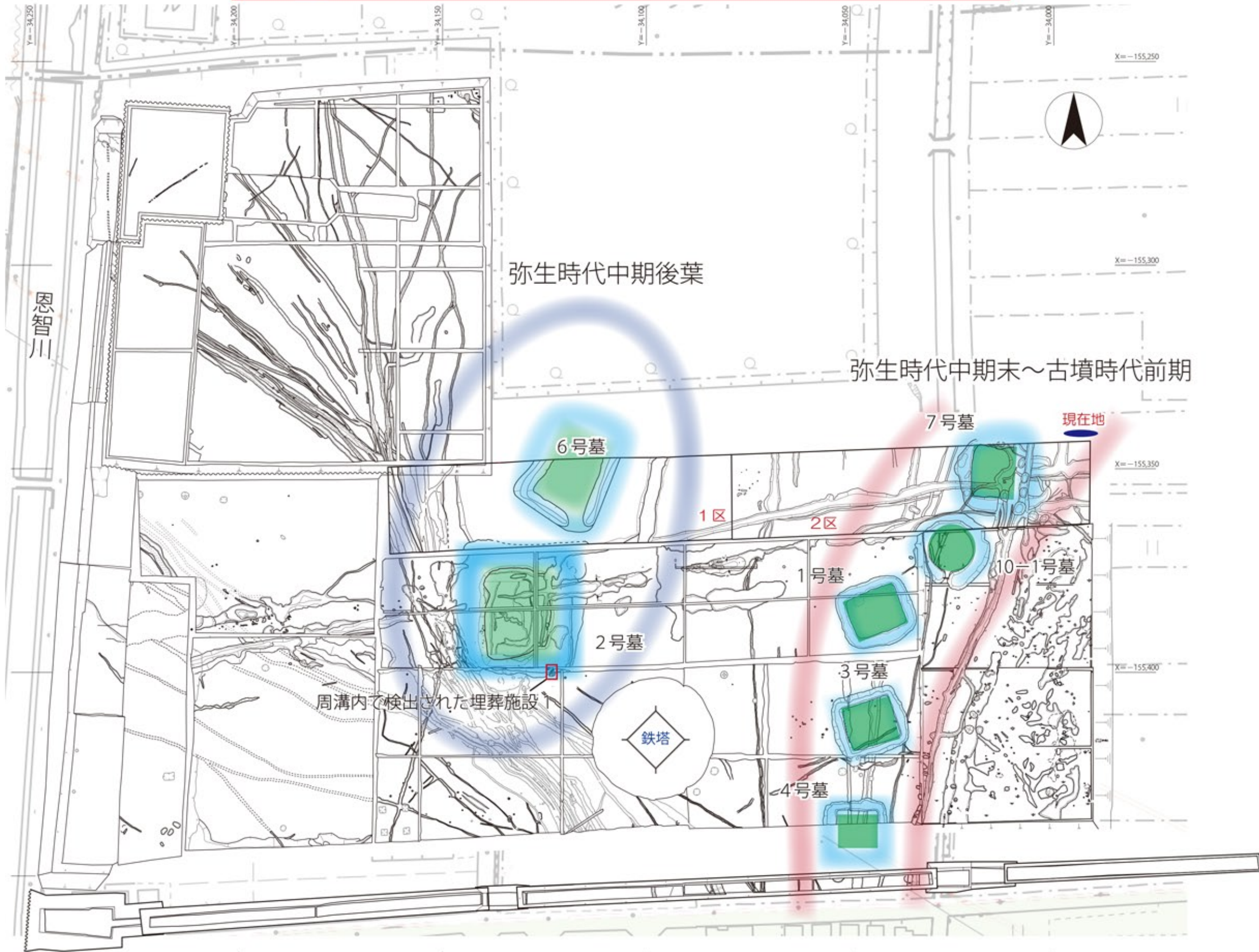
一方、弥生時代中期末から古墳時代前期の1・3・4・10-1・7号墓は、1・3・4・7号墓の墳丘の形が方形・長方形、10-1号墓が円形です。現在調査中の7号墓を除いて、これまでのところ埋葬施設は確認されていません。同時代の他の周溝墓の調査成果から推測するしかありませんが、一つの墳丘に対し一人を埋葬した単数埋葬の可能性がります。

これらの周溝墓に埋葬された人は、どのような人たちが想定されるでしょうか。柏原市法善寺の周辺では、今回の周溝墓と同じ規模の周溝墓群が今のところみつかりません。周溝墓に埋葬された人はこの地域の有力者が想定されますが、これらの人々が暮らしていたムラを特定するには至っていないため、今後の調査が期待されます。

7号墓

時期：弥生時代中期末～後期初頭
 墳丘の形状：長方形
 規模：縦約13m以上
 横約9～10m

埋葬施設：調査中で、今のところみつかりません
 出土遺物：弥生土器(壺、高杯、鉢)



www.citykashiwara.osaka.jp の都市計画図を一部改変して使用。主として弥生時代中期から古墳時代前期の遺構平面図をまとめています。

大県郡条里遺跡・山ノ井遺跡全体図